

精神保健学

	単位数	履修方法	配当学年
科目コード	CQ3136	担当教員	松江 克彦



2011年度以前入学者は科目名が「精神保健」から「精神保健学」に変更になりました。

■科目の内容

精神的健康を保持・増進することは、心豊かな生活と生きる喜びを享受することの基礎であります。しかしながら、精神障害の発生をはじめ、現在のような複雑な社会では、精神的健康を阻害する多くの要因が存在します。そこで本科目では、各ライフサイクル段階での発達や成熟の在り方と、それに対する現代の社会・文化的影響、今日特に問題となる精神障害や精神的問題についての知識とそれらに対する精神保健対策、さまざまな集団における精神保健活動の実際、精神保健にかかわる施策や制度の問題などを中心に学んでいきます。そのような学習を通して、自己や周囲の人の精神的健康について考え、ひいては、人間全体の精神的健康について考えていくことを目的とします。

■到達目標

- 1) ライフサイクルにおける各ステージの特徴と、各ステージにおいて起こりやすい精神的問題や、代表的な精神障害を述べることができる。
- 2) 今日社会的に問題となる精神的問題（精神障害を含む）と、それらに対する精神保健対策を説明できる。
- 3) 我が国の精神障害者の処遇に関して、法律の変遷を中心に歴史的に説明でき、現在どのような方向へ向かっているのか具体的に解説できる。
- 4) 世界の精神保健、特に WHO による障害概念、世界的な精神障害の動向や今後の課題を説明できる。

■教科書

新版精神保健福祉士養成セミナー編集委員会編『改訂新版 精神保健福祉士養成セミナー 2 精神保健学』へるす出版、2014年

(最近の教科書変更時期) 2014年4月

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	精神保健とは何か	精神保健の定義、現代社会における精神保健上の課題などの理解。	現代における精神保健の課題における予防、対策など、メンタルヘルスの重要性とその守備範囲を明確にしておく。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
2	ライフサイクルと精神保健①乳幼児期・学童期	乳幼児期と学童期の発達過程の理解と、当該時期の精神保健。	エリクソンの発達課題などを参考に、この時期の特殊性を理解する。またこの時期の精神保健上の問題を把握する。
3	ライフサイクルと精神保健②思春期・青年期	思春期・青年期におけるライフステージの特徴を理解し、精神保健の課題を把握する。	第二次反抗期でもあり、複雑な現代社会では問題が多発する。その現状を把握し、自我同一性の確立の観点などから理解する。
4	ライフサイクルと精神保健③成人期	成人期の特徴把握と、精神保健の課題を理解する。	家庭と職場中心のこの時期の特徴と心性をよく理解し、家族問題、職場の問題による自殺の増加などについての理解を深める。うつ病の好発時期としても重要。
5	ライフサイクルと精神保健④老年期	この時期の3つの老化を理解し、老年期の精神保健について理解する。	高齢社会では特に重要で、老化およびこの時期多発する認知症などの精神障害を含む精神的問題をよく理解する。
6	精神障害対策	明治以降の精神障害者に関する施策の歴史を理解し、今日の処遇に関する経緯を把握する。	明治から今日までの精神障害者に対する施策の経緯から、今日における入院から社会復帰施策の経緯を把握し、今後の精神障害者の社会におけるあり方をよく考えていく。
7	認知症対策	認知症の疾患理解と認知症対策の流れを把握する。	高齢社会において4～5人に1人といわれる認知症発生の予測は今日の精神保健の大きな課題である。疾患の理解とともに、近年までの施策、今後の対策の方向性を考えることが重要である。
8	精神作用物質乱用に関わる防止対策	アルコール、それ以外の覚醒剤や麻薬に代表される依存性薬物の理解と、それへの防止対策の歴史・現状を理解する。	社会における依存性物質による弊害をよく理解し、その特性を見極め、その防止対策や治療上の自助グループの実際と意義について理解する。
9	思春期精神保健対策	思春期に多発する問題行動の把握、それらに対する精神保健システムについて理解する。	摂食障害、自傷行為（リストカットなど）が多発し、不登校も長引いている現状を年代と現代社会の相互関係を中心に理解し、それらへの対策のあり方を考えることが大切。
10	緩和ケアと精神保健	ターミナルケアから緩和ケアへ至った経緯とこれらのあり方の歴史、現状について理解を深める。	緩和ケアの方法論の趣旨がターミナルケアに発し、それがもっと広い領域に適用される緩和ケアの概念と実際の理解に努め、今後のケアのあり方を探ることが重要。
11	家庭における精神保健	少子高齢社会の理解と育児支援施策の経緯を把握する。	少子高齢社会の理解は、高齢化率と合計特殊出生率から具体的に理解し、育児支援はエンゼルプラン（1994）から現在までの施策を中心に理解する。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
12	学校における精神保健	不登校やいじめへの対応、特別支援教育、児童虐待を中心に理解する。	スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの導入、特別支援教育の現状、虐待の種類と対応策を中心に理解する。
13	職場の精神保健	労働安全衛生法の改正の経緯、職場のメンタルヘルスの現状を理解する。	職場のメンタルヘルスへの取り組み（THP や 4 つのケアなど）を中心に理解を深める。
14	地域精神保健	精神障害者の地域生活への推進。障害概念の変遷の理解。さらに健康作り施策の背景としてある WHO の動きを理解する。	近年の社会復帰政策の現状の理解。国際障害分類（ICIDH）と国際生活機能分類（ICF）の理解。アルマアタ宣言、オタワ憲章の理解など重要。
15	世界の精神保健	世界における精神障害の問題の把握。他国の精神保健福祉活動の現状の理解。障害調整生命年（DALY）の経緯を理解する。	世界の精神保健における問題としてのうつ病の増加や、その他の精神障害の動向の把握。今後の精神保健問題の予測などを理解するよう努める。

■レポート課題

1 単位め	人間のライフサイクルを各段階（時期）に分けてその特徴を説明し、それぞれの段階で起こりやすい精神的な問題についても述べなさい。
2 単位め	<p>【説明型レポート】 下記について各300字以上500字以内で簡潔に説明してください。</p> <p>①アルコール依存症の自助グループと家族支援について ②依存性薬物の特性について ③ WHO による ICIDH と ICF について ④ DALY と精神保健上の課題について</p>
3 単位め	我が国における少子高齢社会の現状と少子化対策、育児支援について述べなさい。
4 単位め	日本の精神障害者の処遇に関する法律の変遷について説明し、その上で第二次世界大戦以後、精神障害者への施策がどのように変わってきたか論じなさい。

■アドバイス

レポート課題に取り組むにあたって考えておいてほしいのは、レポート課題を単にテキストで調べ、それを要求する字数で書けば良いという態度ではいけないということです。私たちの身のまわりで起きているさまざまな精神的な問題に関心を持ち、それらを自分自身の問題として受け止め、それにたいしてどのような対策が行われ、行おうとしているかを全体的に理解することが大切です。そして、自分自身でもその対策を考える積極的な態度が必要です。そのためには、まず教科書を通読して精神保健の概略を理解することです。そうすれば、レポート課題についても、どのような箇所が参考になるのか自ずとわかってきます。また、新聞やテレビで、精神保健にかかわるニュースを読んだり、見たりすることも大切です。新聞の記事のスクラップブックを作るのも理解を深めるのに良いでしょう。その上でレポート課題に取り組んでください。参考図書も最後に挙げておきますが、必読というわけではありません。特に詳しく調べたい人には有用です。レポート課題の評価は、単に教科書に書かれていることを羅列するようなことはせず、教科書をよく理解し、メディアで見たり聞いたりしたこと

なども参考にし、自ら考えたことを自分の言葉でまとめているかどうか、という点も加えて評価します。また、レポートの最後に参考文献（教科書も含む）を必ず記すようにしてください。

さらに、レポート課題にないから重要ではないということではなく、たとえば、認知症の問題（第3章Ⅱ）など、きわめて重要な今日的問題も含まれています。そのような問題についても理解を深め、高齢者における予防や対策のために役立てるようにしてください。

1 単位め アドバイス

ここでは、人間が生まれてから死ぬまでのライフサイクルの全体を理解し、その各段階の特徴や特殊性を良く理解してもらうことを目的にしています。教科書の第2章の全体、できれば参考文献なども参考にしながらまとめてください。精神的問題は、単に精神障害だけでなく、各年代で起こりやすいさまざまな問題や社会的な問題も含まれます。

2 単位め アドバイス

この課題では、他のレポート課題のほかに、今日の精神保健活動において是非知っておきたい項目についての理解を目指しています。指定のテキストにおいて、①は第3章Ⅲ、②は第3章Ⅳ、③は第3章Ⅵに、④は第8章Ⅱに適切な解説を見いだすことができます。これらの理解から、様々な精神保健対策への理解へとつなげていきましょう。

3 単位め アドバイス

少子高齢社会の到来は今日の大きな問題であり、それにどのように対処していくかは我が国の重要課題です。ここでは、高齢社会に至る我が国の経緯を高齢化率の増加を中心に理解し、少子化は合計特殊出生率の推移を中心に具体的に理解しておくことが大切です。その上で、ここ20年間ちかく、国はいかに少子化対策のための施策を行ってきたか、さらに育児支援へとつなげてきているかを理解することを目的としています。レポート作成においては、教科書の第2章のⅥ、第4章のⅠ、さらにできれば参考書なども活用して、数値を挙げたり、具体的対策について、わかりやすく整理して作成するようにしてください。

4 単位め アドバイス

精神障害者の処遇の問題は、狭義の精神保健と言われるように、古くから精神保健の最大の課題です。昔から精神障害者はどのように扱われてきたのか、そして現在、精神障害者をどのような方向に持って行こうとしているのかをよく理解することを目的としています。レポート作成にあたっては、第3章Ⅰ、第5章Ⅰ、そしてできれば参考図書なども参考に、時代と共に精神障害者への対策が法律や制度の変化としてよくわかるように作成してください（法律名や制度名だけでなく、その内容理解と変化の理由をよく理解して作成すること）。このような課題の作成を通して精神障害をよく理解し、精神障害者への偏見などについても理解を深めなければいけません。

■科目修了試験 評価基準

まず課題の理解が大切です。次に課題にたいする解答が指定のテキストの内容理解を基礎としているかどうか大切です。したがって、テキストにある重要な用語や概念を用いて適切に答えているかどうか評価の上で重要になります。

■参考図書

- 1) E.H. エリクソン 村瀬孝雄・近藤邦夫訳『ライフサイクル、その完結（増補版）』みすず書房、2001年
- 2) 厚生統計協会編『国民の福祉の動向』厚生統計協会、最新版
- 3) 精神保健福祉研究会監『我が国の精神保健福祉—精神保健福祉ハンドブック（平成21年度版）』太陽美術、2009年
- 4) 大熊輝雄著『現代臨床精神医学（改訂第11版）』金原出版、2008年
その他、精神保健・精神医学関係の図書